【報 告 事 項】　平成29年度事業報告

平成２９年度事業報告(書)

（自平成29年４月１日 至平成30年３月31日）

法人会を取り巻く環境は依然と厳しい状況の中で、全国の法人会員とともに「よき経営者を目指すものの団体」として、納税意識の高揚、会員の研鑽、地域社会への貢献を柱に、さらに公益法人への移行を契機に、新たな「理念」に基づく税制・税務を中心に社会全体へ貢献していくことの明確化と、志の高い経営者であるとの衿持(きょうじ)を持って、諸活動を展開してまいりました。

特に、平成２９年度も新たな「理念」のもと、公益性・透明性と明確さを前面に打出し、８支部ブロック・８委員会体制のもと中身の濃い委員会活動を展開し、更なる組織・財政基盤の再構築を図りながら、重点施策である「法人会自主点検チェックシート」の普及と県連受託の「婚活支援事業」の支援、新入会員交流事業、異業種交流視察事業に積極的に取組み、事業活動を展開してまいりました。

以下に掲げる項目における事業の取組み状況について、ご報告いたします。

□ 公益関係

1. 税知識の普及と納税意識の高揚並びに税の提言に関する事業

(1) 税法税務に関する説明会･研修会･講演会事業（公益事業推進委員会）

会員はじめ広く一般の企業及び市民を対象に、税法・税務を中心とした説明会・研修会・講演会・セミナーを実施し、税知識の普及による納税意識の高揚に努めました。

・税の研修等　決算期別説明会４回、改正税法説明会１回。法人税実務講座・初級４回、中級６回。税経セミナー３回、税を考える週間特別講演会。青女部会合同研修会２回、氷見・射水・福岡支部税務研修会計３回。合計２４回。

実施にあたり、委員会では、前年度事業の反省を基に、できるだけ関心のあるテーマやホームページ・会報等を活用し早目の案内に心がけました。

全法連では、平成２６年度から企業の成長のために内部統制面の強化や経理面の質の向上が重要であることから、法人会の新たなメリットである「法人会自主点検チェックシート」の普及に取り組んでおります。当会では、平成２８年度から署と協議のうえ「税務署提出一覧表」によりチェック項目数のハードルを下げ、有用なこの制度が１社でも多く活用されるよう平成２９年度も独自施策の推進に努めました。

(2) 税の広報事業（広報委員会）

法人会のイメージと知名度のアップのため、平成２５年の新年号から会報の名称を「ほうじんＨＩＴ」とし、構成と内容の充実を図りながら会員だけでなく、一般市民にも配慮した紙面作りを目指し発行してまいりました。

広報活動の充実は、公益性向上に最も重要であることから、ホームページにも県下の単位会とともに内容の充実に配意し、きめ細かな情報提供に努めました。

なお、会報「ほうじんＨＩＴ」と機関紙「ほうじん」を市役所や商工会議所、商工会の窓口、税理士先生方や関係団体等に配布し、一部の金融機関にも会報を配布し、多くの閲覧を考慮しながら広報に努めました。

また、「ｅ−Ｔａｘ」の会員利用率１００％を目指し、会報誌にマイナンバー制度を掲載し、制度の周知など税務支援にも努めてまいりました。

(3) 税の啓発及び租税教育事業（総合企画委員会）

次代を担う児童や生徒が、税金の仕組みや役割などを理解するための租税教育事業を積極的に推進しました。

氷見・射水・高岡３市の小学６年生を対象に、青年部会が６校、女性部会が２校の計８校で租税教室を実施し、各部会の役員が同じ地域に生きる先輩として講師を務め、クイズなどを織り交ぜ、子供達に税の大切さを伝えました。

女性部会では、「租税教育バス」を運行し、四季防災館、富山県立イタイイタイ病資料館、高岡税務署見学と子供達には見聞を広めてもらうと共に、税とのかかわりを学んでもらう良い機会となりました。

なお、全法連が主催の平成２９年度「税に関する絵はがきコンクール」では、高岡税務署管内の小学校から７２７名を超える応募があり、高岡市立伏木小学校の児童に「高岡税務署長賞」が贈られました。

(4) 税制改正の提言（税制委員会）

「平成３０年度の税制改正に関する要望」について、平成２９年度も全国の法人会の役員を中心に「税制に関するアンケート」を行い、その結果を全法連の税制委員会で取りまとめられた「税制改正に関する提言事項」を、１０月に開催された「法人会全国大会」福井大会において、全国８０万社の法人会員の総意として採択されました。その実現に向けて、全国一斉に関係機関への要望活動が展開されました。

当会も、１１月の「税を考える週間」の期間中に、会長はじめ役員が地元の国会議員と３市長を訪問し、提言書を直接手渡し要望活動を行いました。

2. 地域企業の健全な発展、社会貢献事業（公益事業推進委員会･総合企画委員会）

税以外の政治や経済・経営、年金・労務など幅広い分野での研修会・セミナー・講演会を開催するとともに、地域との共生を目指した社会貢献活動を行い、地域企業ならびに地域社会の健全な発展に資する事業を展開しました。

・税以外の研修等では、雇用管理研修会２回、親会・青女部会記念講演会計２回、新春時局講演会の合計５回。　書籍支援(通年)、ネット研修(通年)。

また、総合企画委員会では、租税教育活動を熱心に展開する青年部会・女性部会に対する親会からの支援として、本年度の租税教室開催校に対し、桜の苗木植樹並びに図書の寄贈を行いました。

女性部会では、社会貢献活動として１０月に「高岡市 若葉保育園」「氷見市 b－らいふ・かんぱにー」「射水市 大江保育園」、１１月に「射水市 新湊中部保育園」に、それぞれ手作り雑巾やタオルを寄贈しました。

さらに、８月に障害者就労継続事業「氷見市 NPO法人安靖氷見共同作業所」へ支援するための資金として寄付を行いました。

□ 共益関係

3. 会員増強･会員支援事業

(1)組織の充実･強化（組織委員会）

平成２４年度末に会員加入率が５０％を割り込み、これを打破するため平成２５年度から安定多数の５５％の早期回復と会員数３１００社を目標に、親会・青年部会・女性部会役員が一丸となり、税理士先生方、取扱保険３社のご協力を得て、目標達成のために、これまで以上の会員増強に努めた結果、２３社の加入に対して、１６５社

の退会（会費未納１０７社を含む）となり、１４２社の減となりました。

さらに、新規設立法人の増加で会員加入率が２．６％の減となり、平成３０年３月末に２５００社を割り込む危機的状況となったことから、次年度以降は、新たな方策で会員増強に取り組みます。

■　会員の状況は、以下のとおりです。

会　員　の　状　況

区　分	公益社団法人 第6期（平成30年3月末）		
	所管法人	会員数	加入率
前首現在会員数	5,687 社	2,633 社	46.3 %
当期加入会員数		23 社	
当期退会会員数		165 社	
期末現在会員数	5,706 社	2,491 社	43.7 %

(2)会員支援事業の充実（共益事業推進委員会）

共益事業推進委員会では、各支部ブロック及び各委員会と連携を図りながら、会員相互の交流をより活発に推進することにより、参加者に会員メリットを実感してもらい、ひいては会員増強の支援につなげるべく事業を企画し実施してまいりました。

１０月の異業種交流視察研修会では、若狭グルメとノスタルジック敦賀体験の旅で、会員相互の交流を深めていただきました。

１月の第４回新入会員交流会では、参加企業自主プレゼンテーション、自己アピールなどを行い、ビジネスチャンスと会員相互の交流を深める良い機会となりました。

(3)青年部会・女性部会の充実

①　青年部会活動の大きな柱である「租税教育活動」および「部会員増強運動」について、より積極的な展開をしてまいりました。

１１月開催の第３１回「全国青年の集い」高知大会では、全国から法人会青年部会員 ２４００余名（当会１３名)が集い、『未来につなぐ絆「志国 高知」』を大会スローガンのもと、大会式典、租税教育活動事例発表や記念講演会に参加し、県下の部会員とも親睦を図り、交流を深めてまいりました。

青年部会では、親会・女性部会とともに諸活動の充実に努めました。

②「 女性部会のあり方（指針）」に沿って、部会員の資質向上と法人会活動の充実・活性化に努めるとともに、税の啓発活動や社会貢献活動を積極的に進めました。

４月に鹿児島県で開催された第１２回「法人会全国女性フォーラム」鹿児島大会に全国から女性部会員１６００名(当会８名)が一堂に会し、大会式典、会活動報告や記念講演会、懇親交流会に参加し親睦を図りました。

女性部会では、親会・青年部会とともに諸活動の充実に努めて、研修活動と社会貢献活動を中心に新企画の事業を展開し、参加者の拡大を図りました。

4. 会員のための福利厚生事業（厚生事業推進委員会）

法人会の福利厚生制度を取り巻く環境が、ますます厳しさを増している状況のもと、財政基盤の安定化を図るため、全法連主導『ふやそう２万社ＧＯＧＯキャンペーン』を大同・ＡＩＧ・アフラック取扱保険３社との連携を一層強化しつつ、会員企業の安定を担保する福利厚生制度の円滑な運営に向けて強力に推進を支援した結果、助成金収入の増加につながることとなりました。

□ 管理関係　（総務委員会）

１．諸会議

委員会活動を中心に、活発に事業を展開してまいりました。

２．公益法人会計に添ったＩＴによる経理処理を進めました。